

## 日本文学研究専攻

受入れ可能学生数:若干名

授業科目	授業科目の内容	担当教員		単位	開講学期	曜日・時限	教室
		職名	教員氏名				
書写文化論Ⅰ	日本の書写文化について、主として和歌に関わる諸資料とその伝来の諸形態についての検討と考察を通して考える。具体的には、和歌の詠作に関わる個別の資料の検討からはじめ、中世以降広く行われた御会関連の資料について実物資料を観察し、その様式の特徴や史の変遷、また伝来形態等のさまざまな側面から考察を加え、その文化史的意義を明らかにすることを目的とする。	准教授	海野 圭介	2	前期	応相談	未定
出版文化論Ⅰ	長い伝統を持つ日本の出版文化について、江戸初期までを範囲として、著者、出版者、流通、読者の問題など、様々な側面から考察する。特に出版が古典の本文に与えた影響について、具体例に即して検討する。併せて、古版本の書誌に関する問題も取り上げる。	教授	落合 博志	2	前期	応相談	未定
出版文化論Ⅱ	出版物を様式的に把握することを目的とする。写本と同様、出版された書物にも大きさや装丁など、様式がある。写本に比べ、手工業製品としての出版物は、技術的経済的理由により、強固に様式化される面も見られる。出版物のモノとしての側面に光をあて、様式上の問題を、具体例に則して考察してゆく。	准教授	入口 敦志	2	後期	応相談	未定
出版文化論Ⅲ	日本の古典分野、とりわけ近世後期における資料を対象に、板本の取り扱い方、読み方のリテラシー、さらにはその成立過程や流布、伝来といった側面をもとりあげ、各資料の調査・分析・解釈の方法について講義することで、資料に表れた文化的特質を多様な観点から総合的に研究できるようにする。	准教授	木越 俊介	2	後期	応相談	未定
資源集積論Ⅰ	江戸時代における庶民生活や社会状況などを知る有力な情報資源の一つに日記資料がある。本講義では、未刊行の日記資料を講読しながら、そこに集積された多様な情報を整理・活用するために必要な調査・分析の方法を学ぶ。	准教授	太田 尚宏	2	前期	応相談	未定
資源集積論Ⅱ	文化資源として集積された様々な蔵書や記録資料群を対象に、そのモノの科学的資料分析と技術、体系的な資源管理のあり方について考察する。具体的には、 1. 多様な原資料である文化資源の主たる組成である紙の繊維組成の分析 2. 複合材質や形態に関する測定と解析・蓄積 3. 蔵書や記録資料群の物理的保存のための環境管理・保存措置 4. 蔵書や記録資料群の物理的保存のための修復の方法と技術 5. 記録紙に関する製造と流通の特質 この授業の講義においては、理論のみならず実践を重視し、本館の特徴を生かして図書館・アーカイブズ施設をできる限り活用していく。	准教授	青木 睦	2	後期	応相談	未定
作品形成論Ⅰ	各受講生のそれぞれの研究対象とする作品を、注釈的態度で精読してゆく。本文校訂、先行研究の調査、典拠の指摘など、基礎的な調査は、作品の研究に欠かせない作業である。こうした調査の結果を、単なる指摘に終わらせず、読解へと結実させてゆくことを演習方式で学んでゆく。作品の選択、どういう点を中心に調査を進めるかは、受講生の研究対象・関心の在処に応じる。いま一度、自身の研究対象に正面から向き合い、注釈に取り組むことによって、作品を読解するという研究の基本に立ち返って作品を理解することを目的とする。	准教授	小山 順子	2	後期	応相談	未定

## 日本文学研究専攻

受入れ可能学生数:若干名

授業科目	授業科目の内容	担当教員		単位	開講学期	曜日・時限	教室
		職名	教員氏名				
作品形成論Ⅱ	五山文学の漢詩集の形成、『狂雲集』の例を中心に。中世の禅僧は様々な機会に応じて漢詩を作成した。それらが編纂されて、一つの作品として漢詩集になった。一休宗純の漢詩集である『狂雲集』を例として、写本や作品に関連する文献(年譜など)の検討をすることで形成過程を考える。具体的な作業を通じて、作品に対しての批判精神を養う。本授業は漢詩集を扱うが、漢文の能力は必須ではない。	准教授	ダヴァン デイ デイエ	2	後期	応相談	未定
作品享受論Ⅰ	江戸時代における古典学はどのように展開し、どんな達成を遂げたのか。そしてそれは、近世文学の思潮や文学史とどのように関わり合ったのか。時代に即して江戸を考える時、彼ら江戸の人びとの〈知〉の基盤整備の実態をつぶさにおさえることは、極めて重要な問題だ。本授業では、江戸時代に成立した注釈書の精読を通して、公家の流れを汲む〈学〉の系譜の種々相を明らかにしたい。	教授	神作 研一	2	前期	応相談	未定
作品享受論Ⅱ	近代文学を近世から断絶したものと考えるのではなく、連続し継続し関連する流動体として捉えることで、明治以降の文学におけるダイナミズムと諸問題の解明を目指す。	准教授	青田 寿美	2	後期	応相談	未定
作品享受論Ⅲ	近代の小説に伝承文学が取り込まれる仕組み、古い物語に対する創作的補足、増幅の方法、展開させてゆく意味、そして、歌の部分の取り入れについて考察・分析し、論文化を試みる。 授業のねらいは二点ある。第一に、文学を考えるにあたってつねに口承文学からの視野を備えられるようになることである。第二に、文学における声と文学との関係性を実証的にまた論理的に考えられるようになることである。 洋の東西を問わず、特定の声の響きとともに届けられてきた文学が、近代の文学において再生するありさまを洗い出す。古くから多様に継承されてきた、パフォーマンス性をそなえた言葉が、近代小説のなかで、どのように新たな物語を産み出していったかを突き止めたい。	准教授	野網 摩利子	2	後期	応相談	未定
文学思想論Ⅰ	本講では、説話・歌謡・絵画等々、日本文学の様々なジャンルに濃厚な影響を与え続けた『法華経』を軸として享受の具体相を概観し、分析することを試みる。特に室町物語を素材とし、絵画資料、民俗資料、地誌をはじめ、室町から江戸にかけて成立した仏教・神道等の諸注釈書など、文学周辺領域の資料も視野に入れてその特質を考究する。	教授	齋藤 真麻理	2	後期	応相談	未定
文学芸術論Ⅰ	能楽の形成と展開について、新しい視点に立ち、資料と作品を読み直すことによって辿っていく。具体的には「観阿弥・世阿弥により能楽が大成される以前」「唱導劇から人間劇へ」「世阿弥と元雅」「応仁・文明乱後の新しい能楽の展開」という四項目から講義を行う。 能の歴史について基本的な理解を得ること、問題意識を持つようにすること、資料を批判的に読む研究姿勢を持つことをねらいとする。	教授	小林 健二	2	前期	応相談	未定
文学芸術論Ⅱ	この授業は、近世期の絵入り版本を正確に読み解くことを目的とする。 この授業の内容は、絵入り版本の書誌的研究、翻刻、注釈付けを行い、描かれている画題について、その典拠となる日本文学等との関連を調査研究して、解題を付すことを行う。	教授	山下 則子	2	後期	応相談	未定
文学社会論Ⅰ	明治に遂行された日清・日露という二つの対外戦争は日本の社会のあらゆる面に大きな変容をもたらした。外地における戦いのあり様を描くことで文学にどのような変容が生じたのか、作品の提示する時空間のあり方を中心に、具体的な作品に即しながら考察する。	教授	谷川 恵一	2	前期	応相談	未定

## 日本文学研究専攻

受入れ可能学生数:若干名

授業科目	授業科目の内容	担当教員		単位	開講学期	曜日・時限	教室
		職名	教員氏名				
文学社会論Ⅱ	文化的な営為を理解するには、その時代を成り立たせていた社会システムと、そのもので発生した諸記録についての知識が不可欠となる。 本講義では江戸時代を対象として、とくに、①幕府や藩の記録管理と組織構造に関する研究、②組織の記憶と歳事儀礼に関する研究などについて、館蔵の関連資料を用いて理解を深めるものとする。	教授	大友 一雄	2	前期	応相談	未定
文学社会論Ⅲ	本授業では歴史書の編纂とアーカイブズの関係を検討する。特に、近代日本の出発点として語られる明治維新をテーマとする。具体的には、特定地域における明治維新を題材とした書物、その編纂・執筆のために利用されたアーカイブズを読解する。変革期の歴史を叙述し、記録を収集・保管・利用するという営為がどのような社会基盤の上に成り立ってきたのか、分析・議論する。	准教授	宮間 純一	2	後期	応相談	未定
文学研究基礎論Ⅰ	学位取得者に対する近年の要望は、専門性の卓越は勿論のことながら、広い視野による豊かな総合性にも大きく向けられている。その観点から、多数の研究者によって構成される授業を設け、学力およびその基礎となる総合力の向上を支援する。	関係教員		2	前期	応相談	未定
文学研究基礎論Ⅱ		関係教員		2	後期	応相談	未定
文学情報論Ⅰ	近年では、インターネットの普及、デジタル化の進展により、テキストデータを計量的に分析しようという試みが人文科学でも見られるようになってきた。 このような背景の下、本講義では、テキスト、特に文体の計量分析において必要な知識と技術を習得することを主眼に置く。講義期間の前半では、主として文体研究の歴史と周辺領域を講義形式で概観し、後半では、データ解析ソフトウェアを使って、古典、近代の文学作品の文体分析を実際に行っていく。	准教授	野本 忠司	2	前期	応相談	未定
書物情報論Ⅰ	幼学書から見る書物の世界を主題に据えて取り組んでみる。とかく幼童向けと軽視されがちな幼学書だが、その知識体系には、簡単に見過ごすことの出来ない重要な問題が多い。講義で日本において枢要な役割を果たした幼学書群を採り上げて、その多様な注釈書、伝世の形、影響関係にもふれる。一部のものについては、横断的に読むことを通して、その意匠の多様性にふれるとともに、古くは上代・平安時代から新しい所ではマンガに至るまで、意匠と研究上の意義に焦点をあてた分析を試みる。	准教授	相田 満	2	後期	応相談	未定
記録情報論Ⅰ	近世都市江戸の災害情報について考える。具体的内容は以下の三項目である。 (1)水害現場から幕閣までの情報伝達はどのようになされていたか。 (2)行政担当者間で過去情報の蓄積と利用はどのようになされていたか。 (3)民間社会での伝播はどのようにであったか。かわら版や水害ルポルタージュ「安政風聞集」などを検討する。	教授	渡辺 浩一	2	前期	応相談	未定
記録情報論Ⅱ	近世日本における記録情報の蓄積の一例として、公家アーカイブズを事例として取り上げる。公家の記録情報がいかに蓄積されていたか、特にこれまで研究が乏しい近世公家の文書管理に関する記録情報を軸に検討してみたい。 また、近世公家の文書管理に関わって、公家文書のアーカイブズ情報化(現状記録論・目録作成など)についても学ぶ。	准教授	西村 慎太郎	2	後期	応相談	未定

## 日本文学研究専攻

受入れ可能学生数:若干名

授業科目	授業科目の内容	担当教員		単位	開講 学期	曜日・時限	教室
		職名	教員氏名				
記録情報論Ⅲ	近現代における記録情報の多様性とその社会的背景について考える。 前半では明治・大正期の記録情報社会の形成を取り上げる。具体的には、義務教育制度と印刷技術の向上によって人びとが記録を形成する主体となり、日記や手紙などさまざまな文字記録が蓄積される一方、写真や映像といった非文字記録が登場する歴史をさまざまな記録を素材にして考える。 後半では、昭和期以降の記録情報社会の発展を取り上げる。具体的には、マスメディアの発達を背景にして情報化社会へと展開していく時代のなかで、紙からデジタルへと記録媒体が多様化し、それにあわせて記録情報そのものの内容も変化していく歴史を考える。	准教授	加藤 聖文	2	前期	応相談	未定
アーカイブズ学集中講義	多様な学問分野の研究高度化のため、その基礎となるアーカイブズ学を体系的に修得する。特に、資料の保存と活用方法についての視野の拡大や、自分自身の研究を地域でどのように活用していくかについて考える契機とする。	関係教員		2	後期	応相談	未定

## 【備考】

以下を条件として受講を認める。

- ・学内他専攻の学生の場合については、受講を希望する科目の担当教員と学生との合意に基づき開講する。
- ・「文学研究基礎論」の受講については、当専攻の学生が履修登録している場合に限る。

## ●問い合わせ先

国文学研究資料館・総務課研究支援室教育支援係  
TEL:050-5533-2916, MAIL:edu-ml1@nijl.ac.jp